

糖尿病治療に関わる医師を 対象とした調査研究 J-ARROW Diabetes

日本糖尿病協会学術委員会

志原伸幸 山田祐一郎 石田均 稲垣暢也 池田香織 門脇孝
貴田岡正史 高本誠介 佐藤譲 寺内康夫 矢部大介 清野裕

目的

糖尿病診療の現状を把握し、患者指導における医師の重視項目と、改善が可能と思われる潜在的課題を特定する

方法

対象：日本糖尿病協会療養指導医・登録医
その他糖尿病治療に関わる医師

期間：2009年9月～2010年3月

調査：無記名自記式調査票

配布：郵送(療養指導医・登録医)

対面(研究共催社MRにより担当医療機関
の糖尿病患者を診療している医師へ配布)

回収：郵送

課題

1. 治療開始時における医師の日常的重視事項
2. 医師から見た患者にとっての積極的治療の阻害要因
3. 経口糖尿病薬治療に関する期待値と評価
4. 患者に対する療養指導における重視事項

対象

3,363名 (回収率 64.3%)

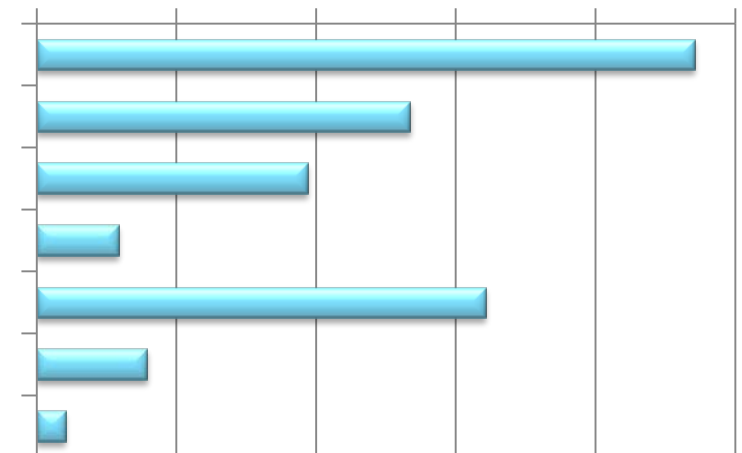
患者数

1カ月当たりの外来診療患者数
平均 494.9 ± 564.2人
そのうち2型糖尿病患者数
平均 179.0 ± 212.4人

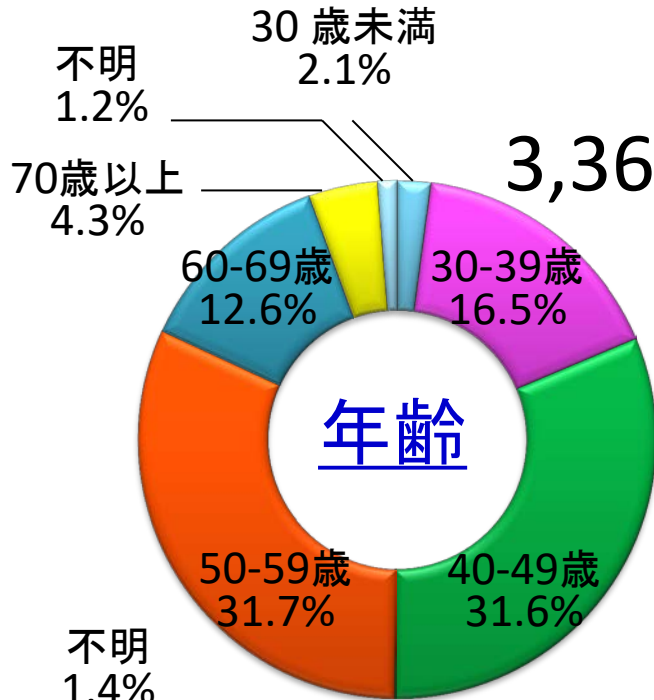
専門

0 10 20 30 40 50(%)

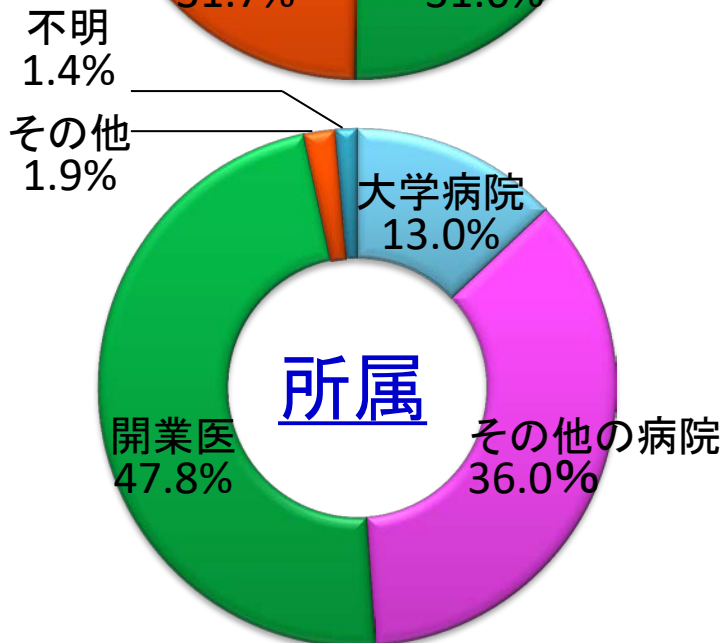
糖尿病
代謝・内分泌
循環器
腎臓
その他の内科
その他の科
不明



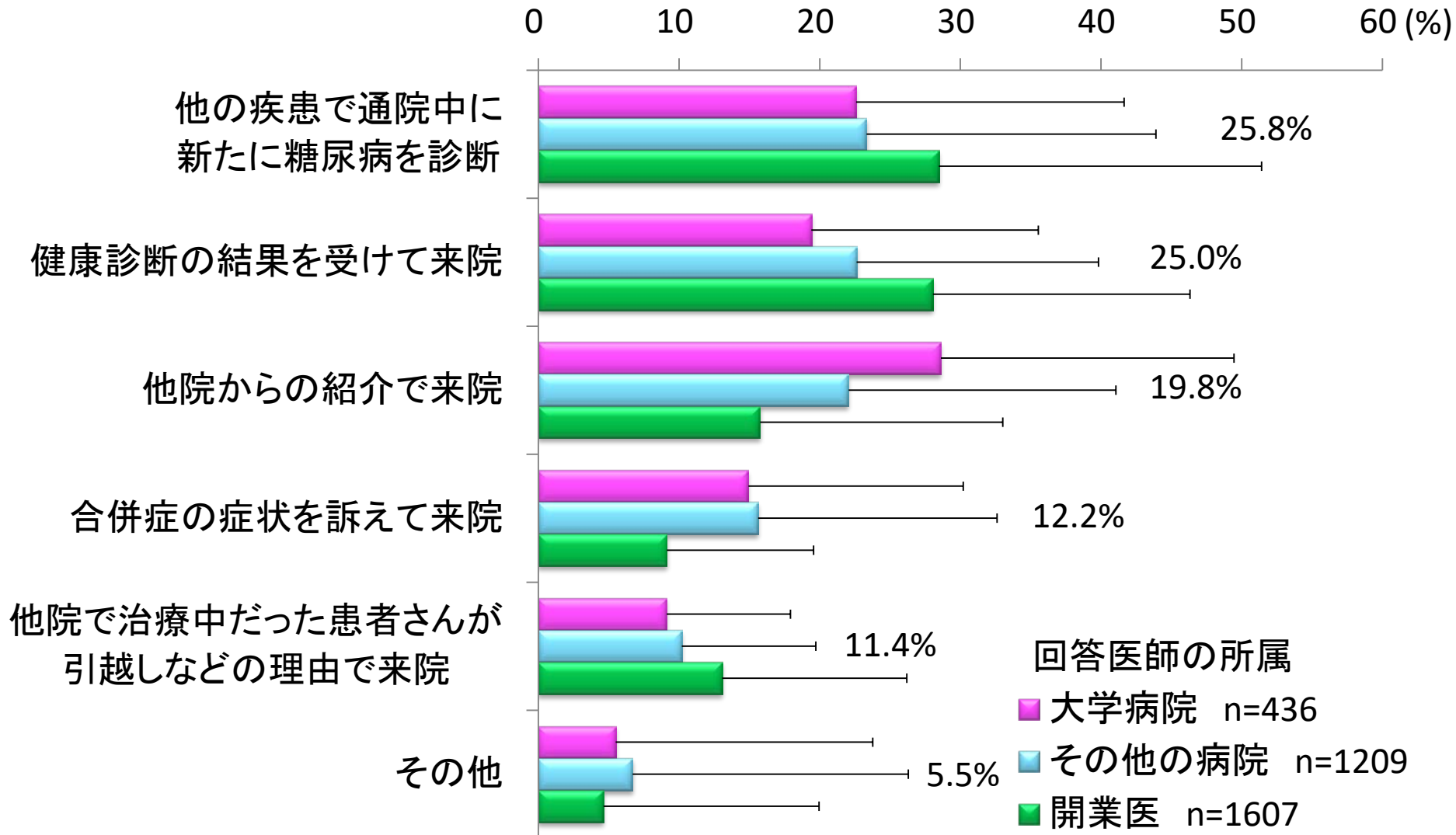
年齢



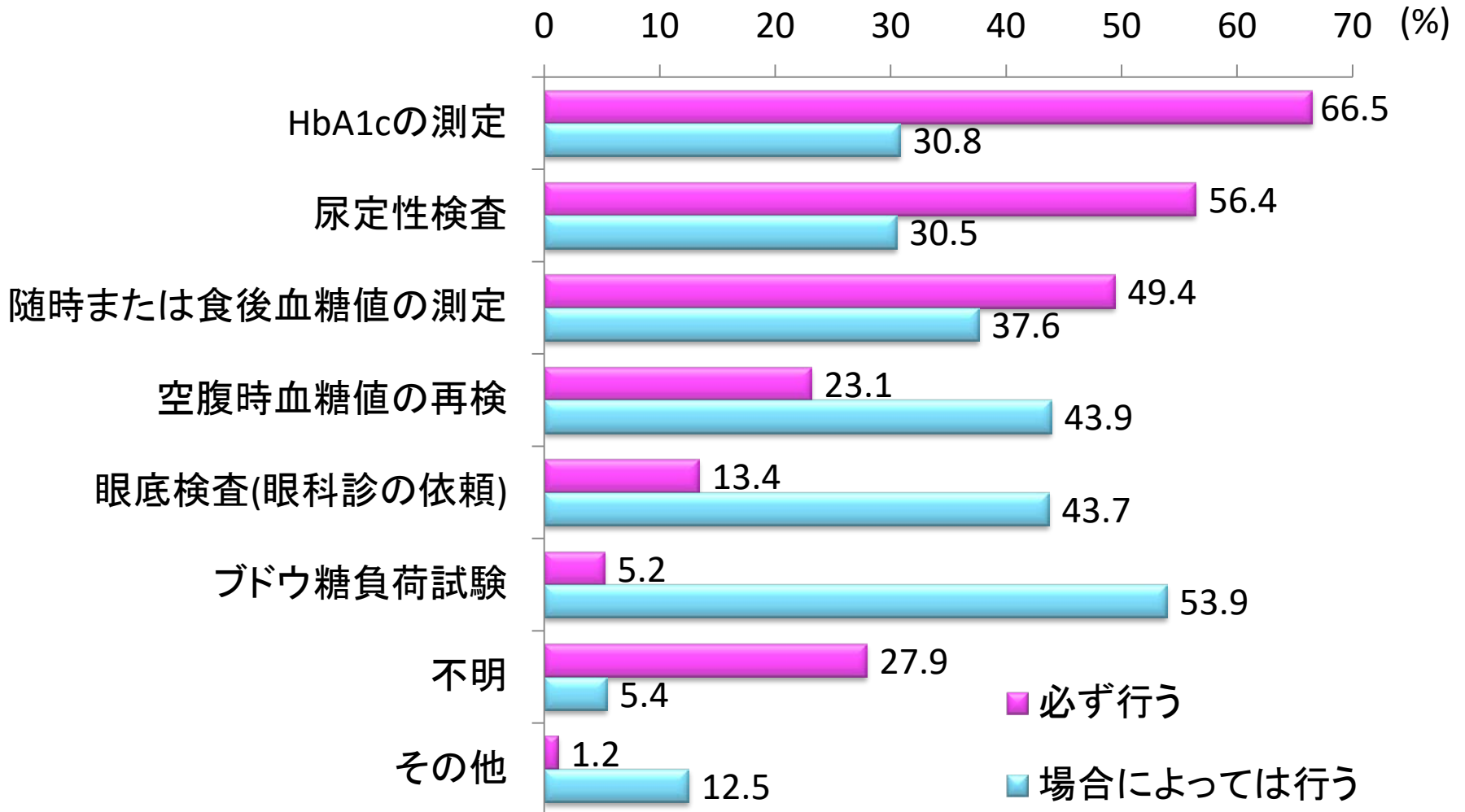
所属



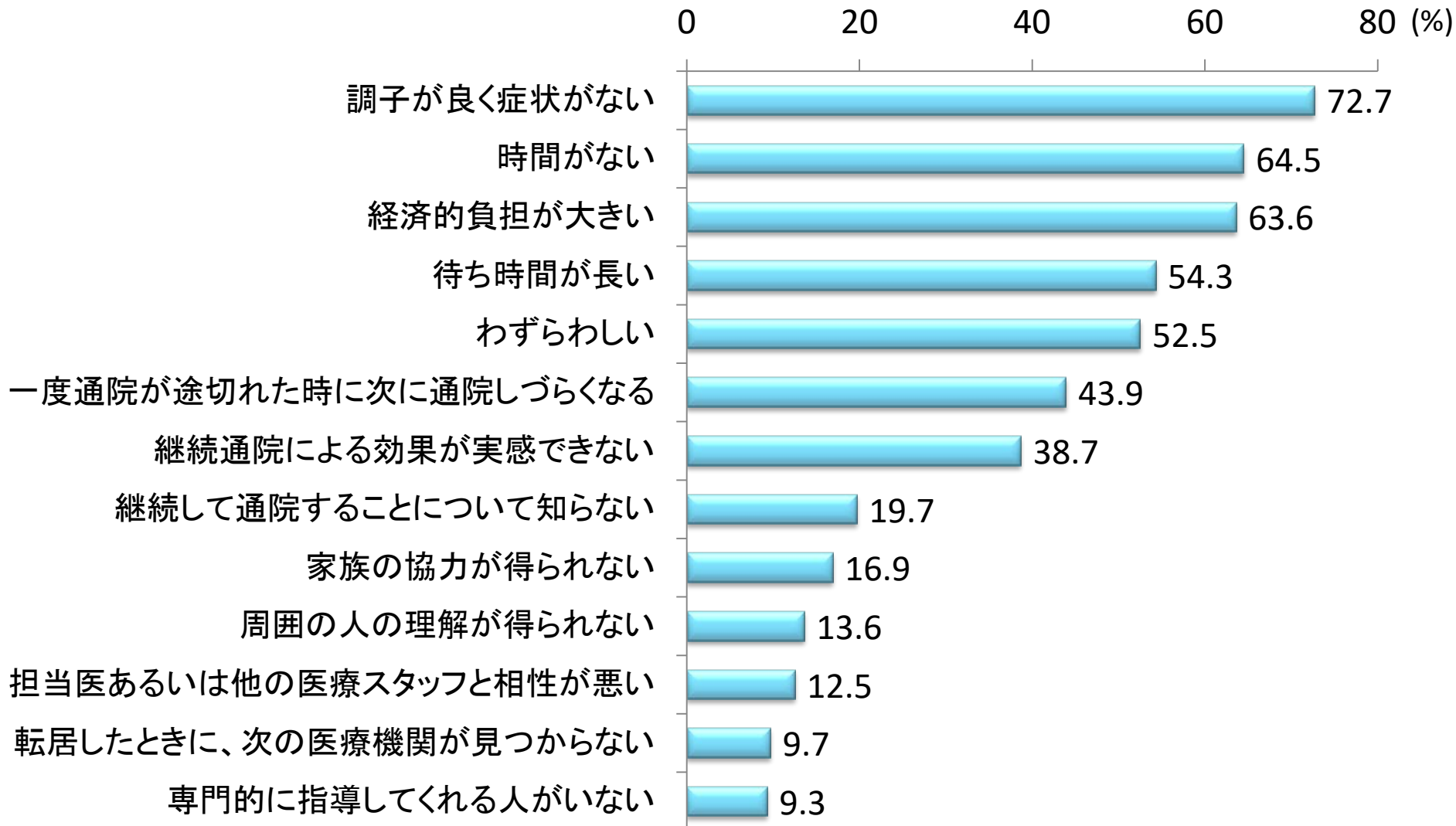
糖尿病患者を診察するきっかけの割合 (糖尿病患者全体を100%とした場合)



健診で受診勧奨を受けた患者さんが受診してきた場合に 外来で必ず行う検査/場合によっては行う検査

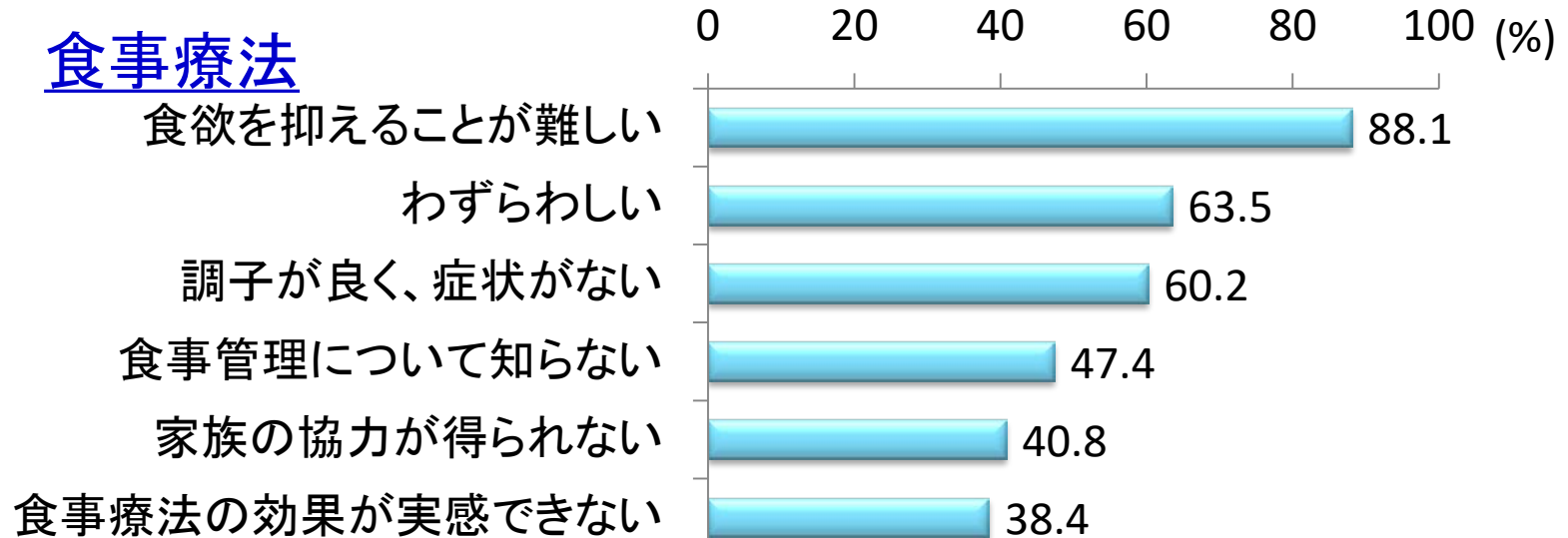


患者さんにとって継続通院を行う上で妨げになると思うこと

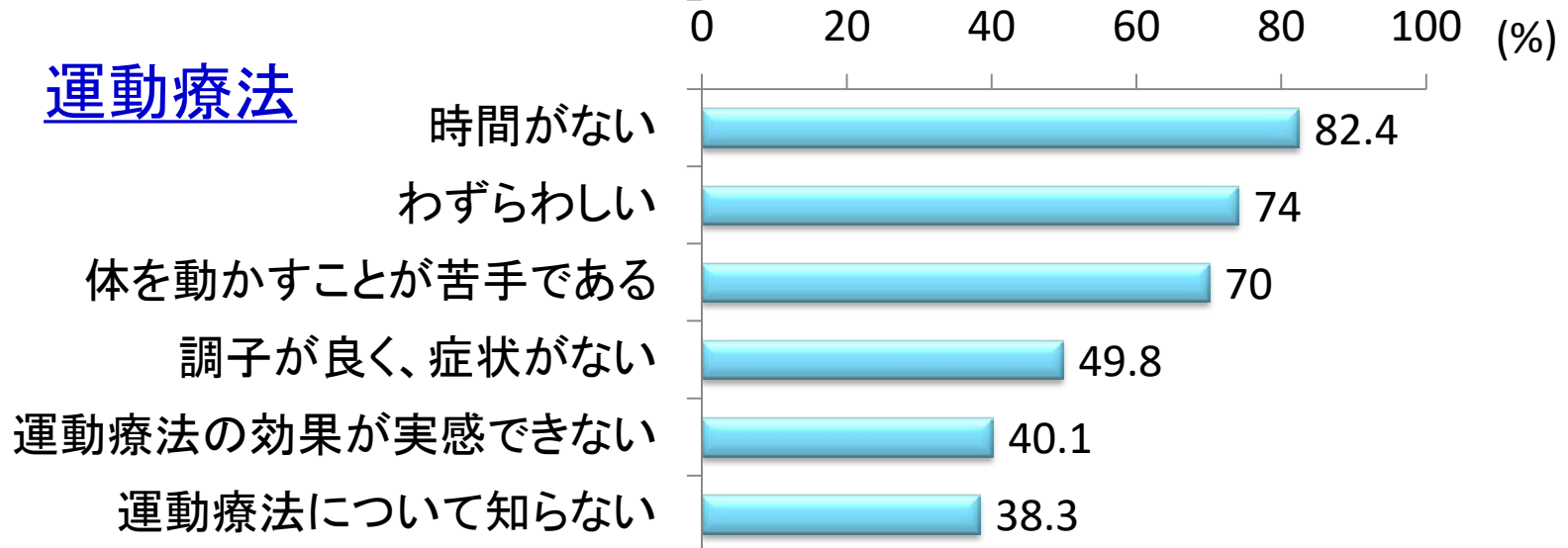


食事療法・運動療法の妨げ

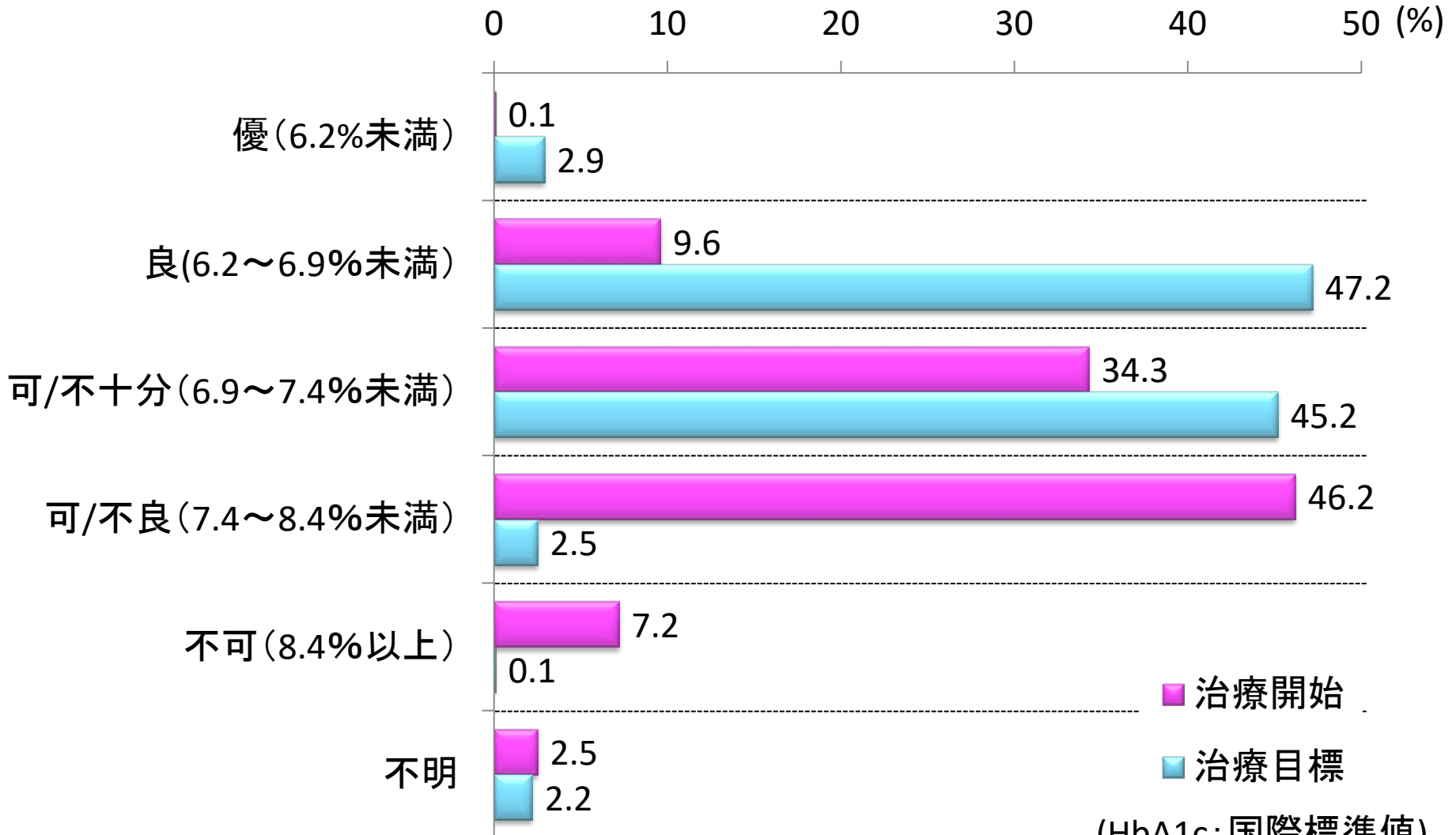
食事療法



運動療法

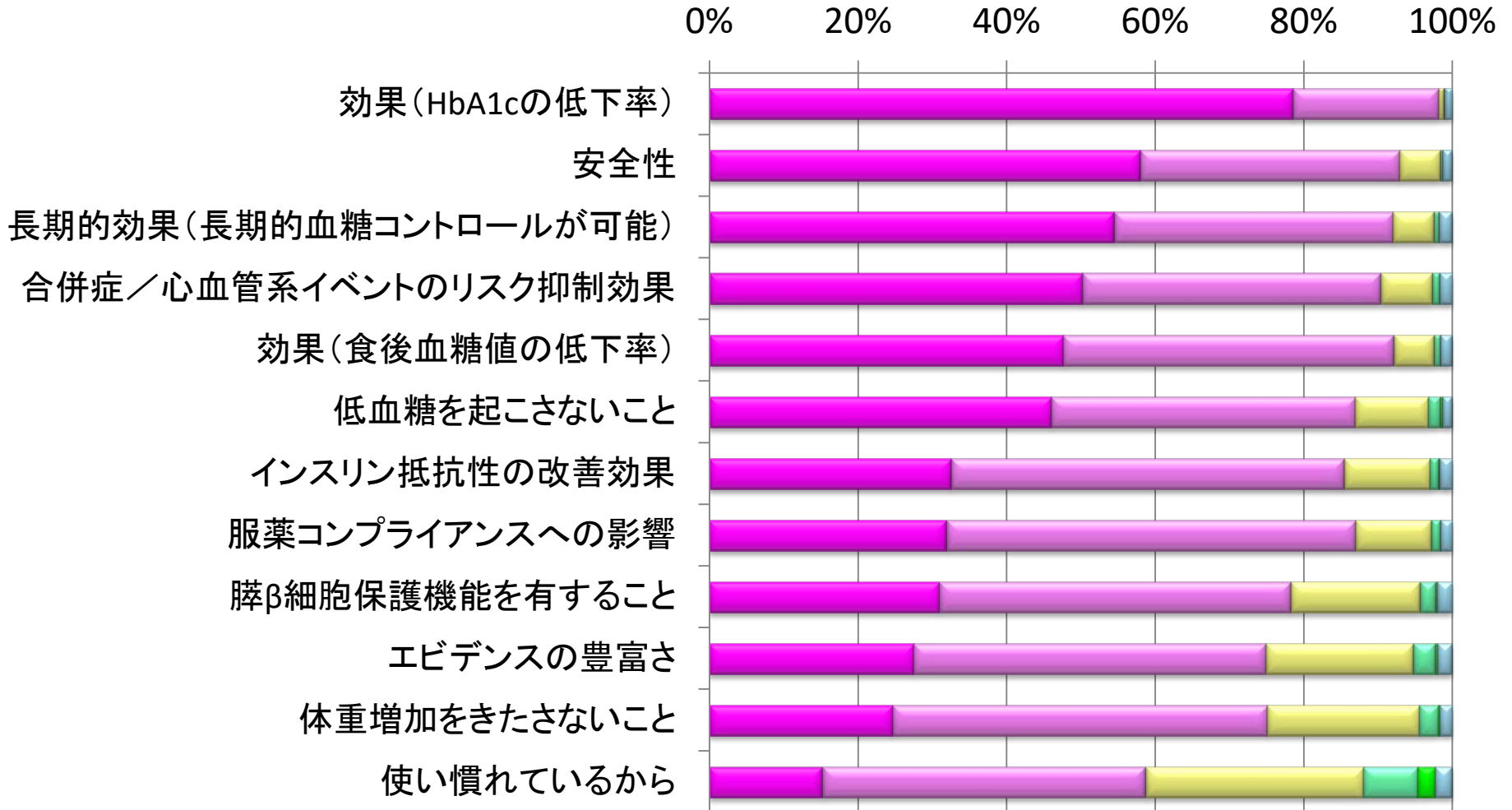


経口糖尿病薬治療を開始するHbA1c値と 治療目標HbA1c値



(HbA1c: 国際標準値)

経口糖尿病薬処方時の重視事項

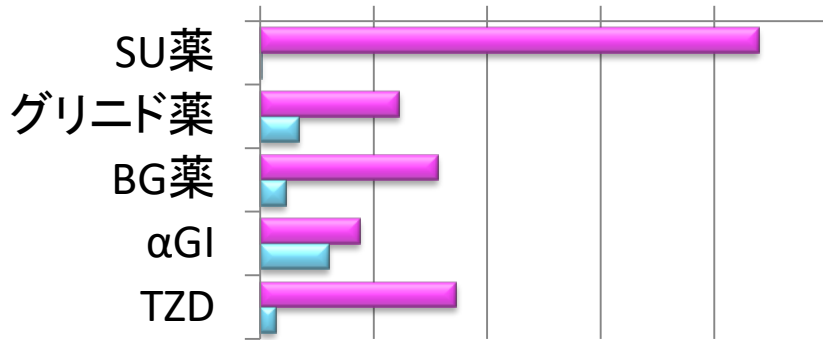


各経口糖尿病薬の効果について

特に評価している項目/特に不足していると考える項目

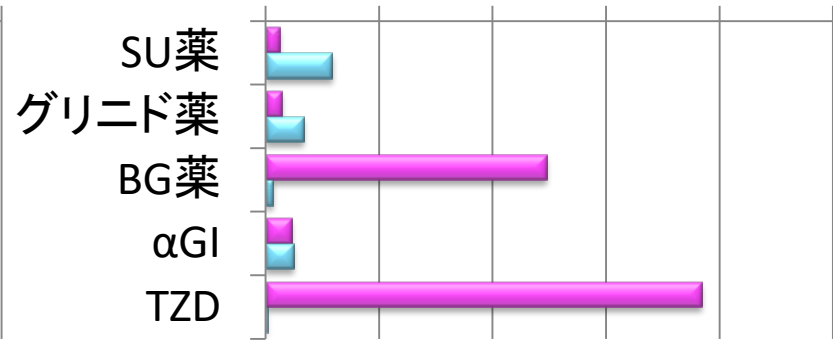
効果 (HbA1cの低下率)

0 20 40 60 80 100 (%)



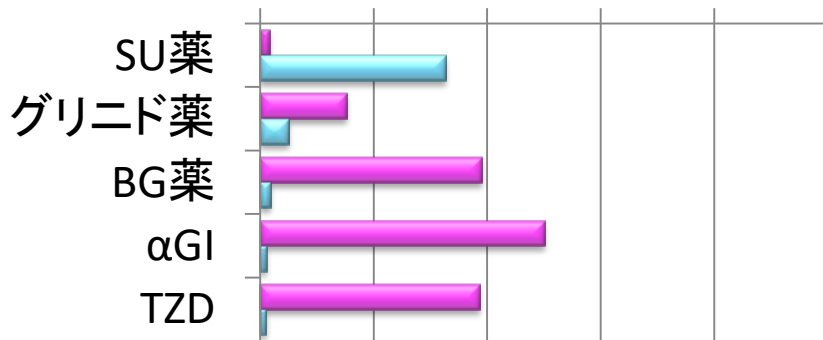
インスリン抵抗性の改善効果

0 20 40 60 80 100 (%)



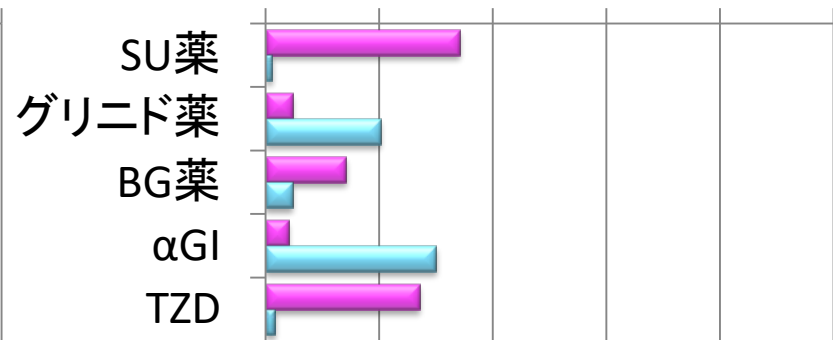
低血糖を起こさないこと

0 20 40 60 80 100 (%)



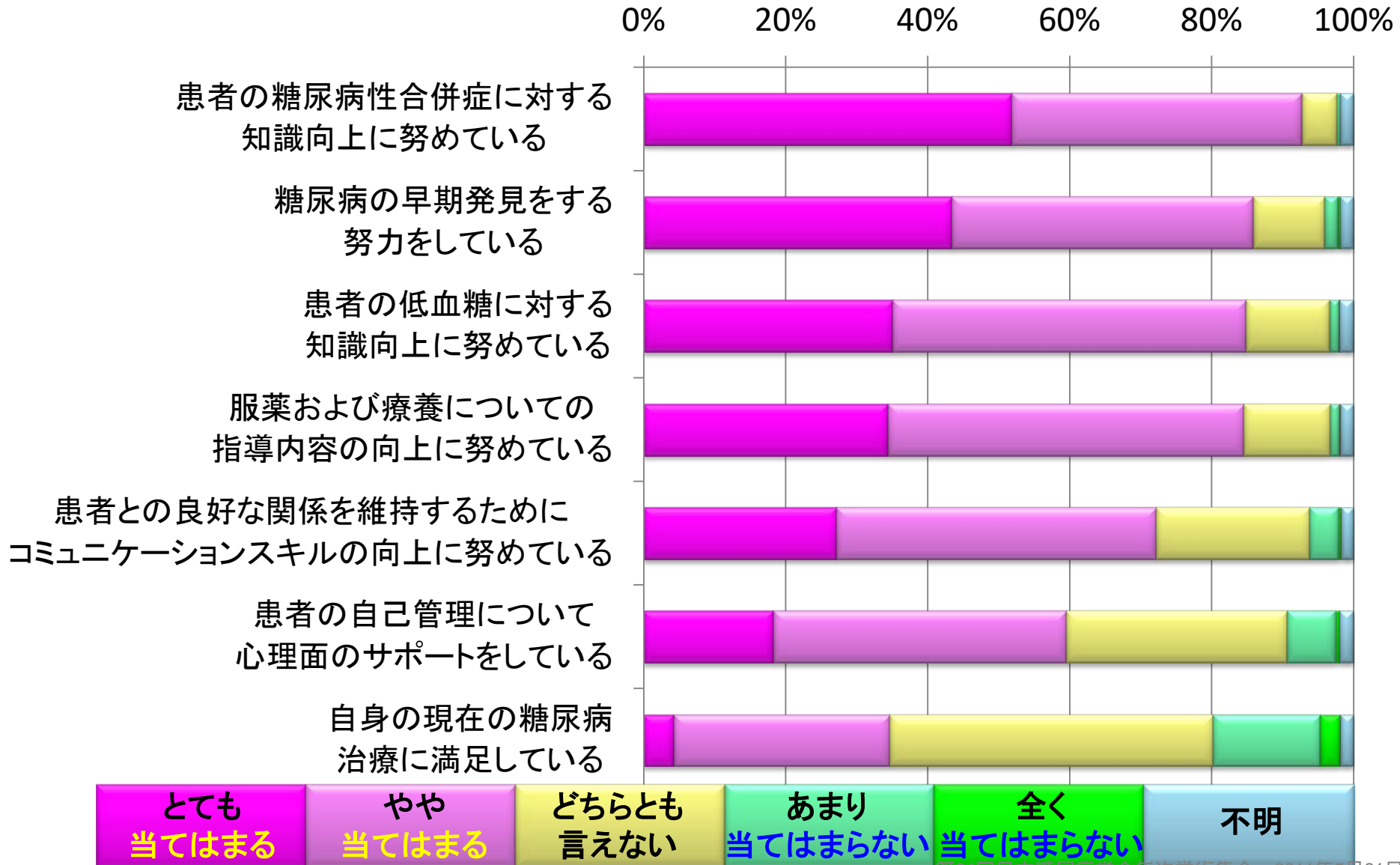
服薬コンプライアンスへの影響

0 20 40 60 80 100 (%)

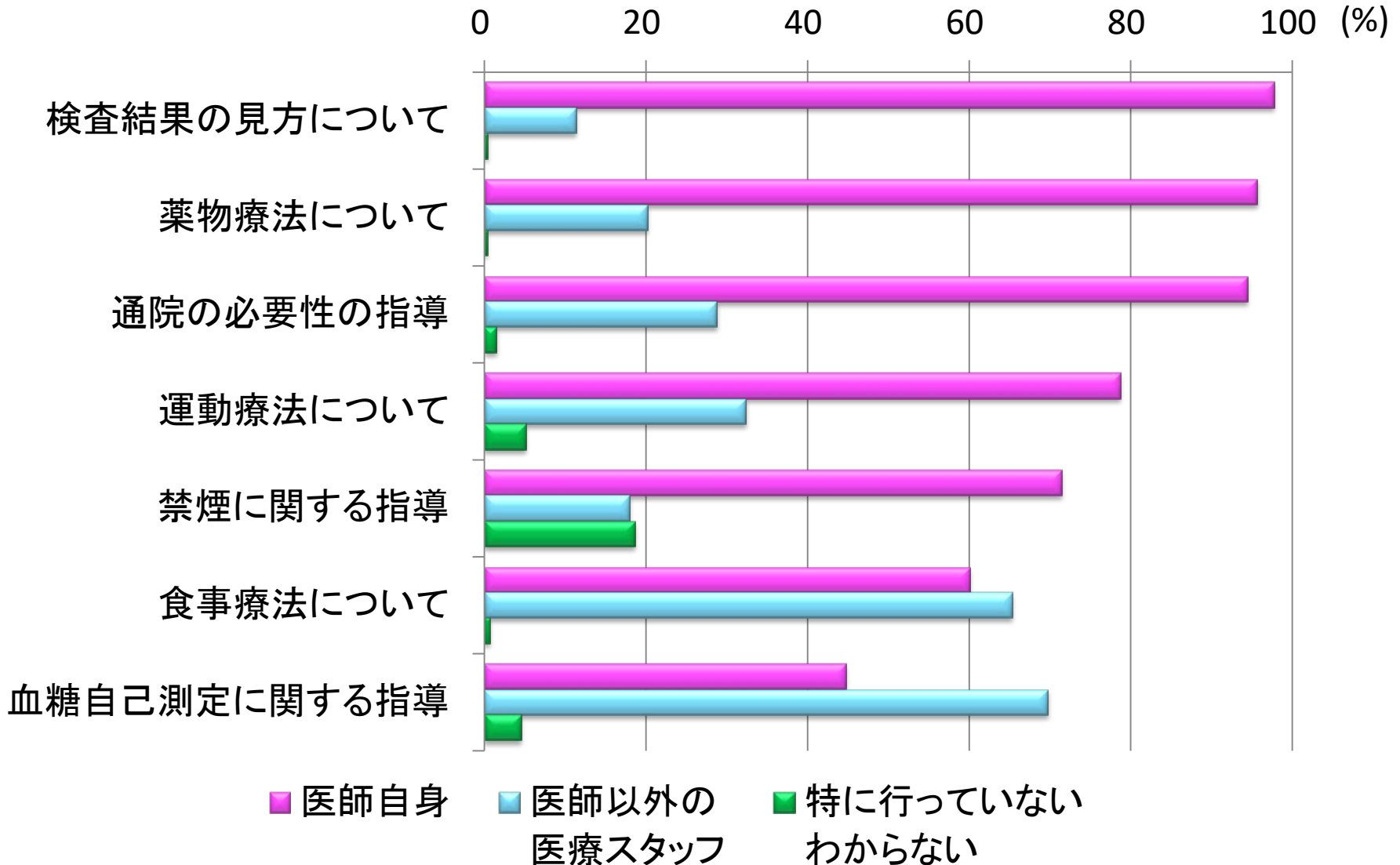


■ 評価
■ 不足

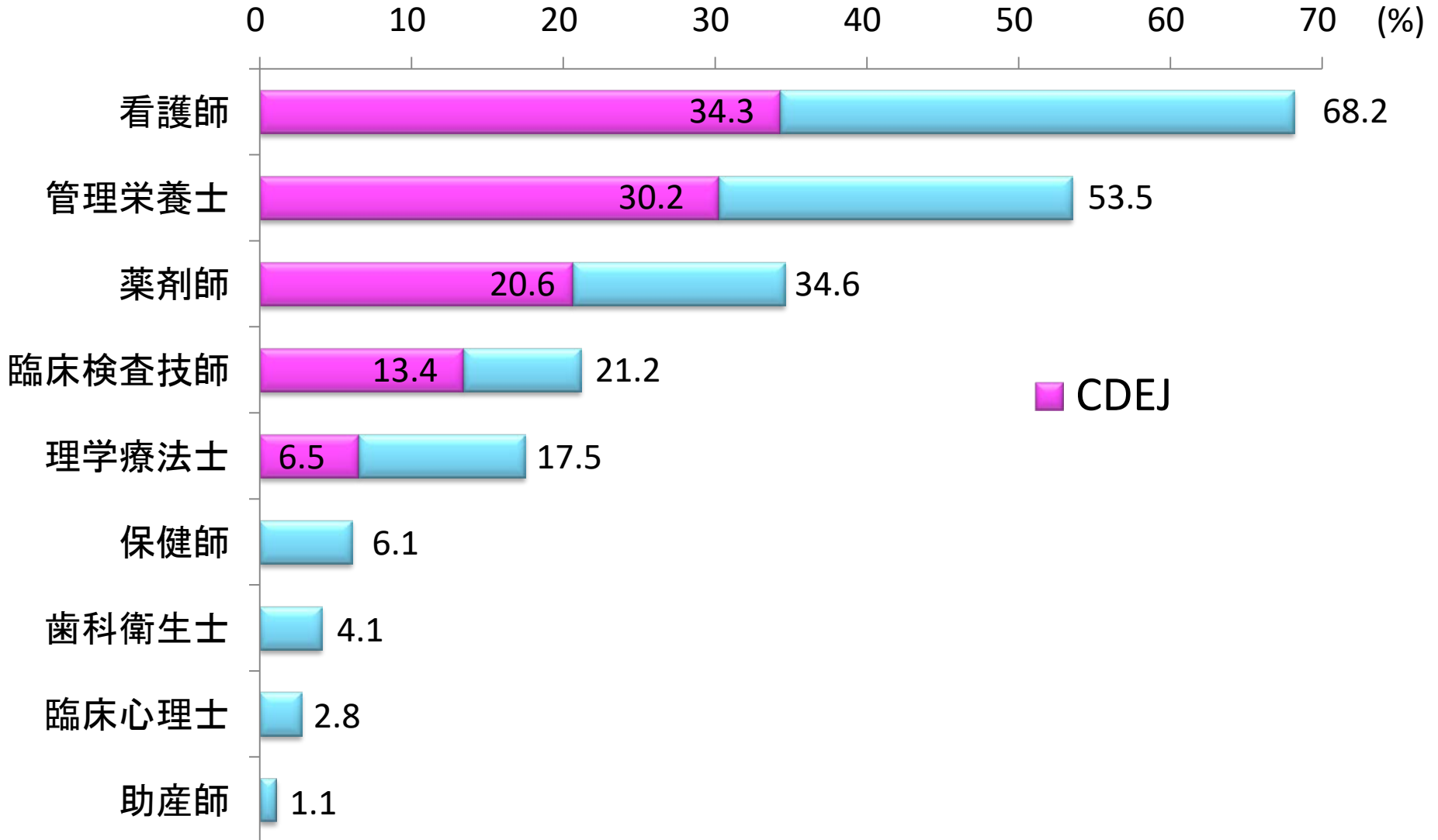
糖尿病の治療に対する姿勢



糖尿病患者に対する指導



糖尿病診療へのコメディカルの関与



まとめ

- 回答医師は、糖尿病を専門とする医師とその他の内科医師とが約半数ずつであった。
- 他疾患で通院中に診断する場合と健診結果により受診するが多かった。健診をうけて来院した患者の空腹時血糖値の再検割合は23%と低かった。
- 患者にとって最も治療の妨げと考えられる要因は、「調子が良く、症状がない」ことであり、自覚症状のない患者の治療継続に困難を感じていた。
- 経口糖尿病治療薬開始と治療目標のHbA1cはガイドラインに沿ったものになっていた。
- 糖尿病の早期発見や指導内容の向上に努めていると答えた医師が8割を超えるにもかかわらず、自身の糖尿病治療に満足している医師は4割未満にとどまった。

結語

今後、本研究の結果を患者に対する意識調査の結果と照合することによって、医療者と患者双方にとっての潜在的課題を特定し、糖尿病実地医療の質的向上につなげていくことが重要である。

謝辞

京都大学大学院医学研究科健康情報学分野教室

京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学教室

NPO法人EBH推進協議会

MSD株式会社